

科目名	病態分子生理学特論	選択	1単位
-----	-----------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 厚味 厳一 講師 道志 勝、講師 富岡 直子、助教 石橋 賢一						
開講年度	2022年度	配当年次	1～4年	配当学期	前期	授業方法	講義
授業の概要	疾患は、単一ではなく複合的な要因によって引き起こされるものも多く、生活習慣病やがんなどはその代表である。これら複合的な要因に関して分子に基づいた視点での解析が行われており、さらに解析結果は診断や治療に応用されている。 本講義は2日間の集中講義形式で行う。各日1つの疾患を取り上げ、分子的な視点で病態をとらえることを、グループワークでディスカッションを交えて目指す。具体的には、各自でまとめてきた疾患の病態について、グループで様々な視点を意識して話し合う。次に話し合ったことについて教員と意見交換を行った後に、グループとしての意見をまとめて発表する。						
授業の到達目標	① 薬物治療や病態把握への応用を目指し、統合的かつ分子的な視点から疾患をまとめ、その内容を説明できる。 ② 分子生理学的な理解に基づいて、疾患に関することを薬物治療を主導する立場として伝えることが出来る。						

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	厚味 厳一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 石橋 賢一 助教	事前に調べてきた1つ目の疾患の病態について、学生同士で共有する。 疾患1の病態を分子的な視点で捉え、さらに深く調べることを見つけ出す。
	2	厚味 厳一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 石橋 賢一 助教	疾患1について、分子病態生理学的に説明できる。 疑問点や問題点を抽出し、解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けた方向性を示すことができる。
	3	厚味 厳一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 石橋 賢一 助教	疾患1の病態を、薬物治療に基づいた視点からとらえることが出来る。
	4	厚味 厳一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 石橋 賢一 助教	疾患1の病態や薬物治療を分子的な視点で捉え、根拠に基づいてわかりやすく説明できる。 議論を通して、他人の意見を参考にして、自分の考え方や意見をまとめることができる。 疾患1について、薬物治療を主導する立場として、他の人に伝えることが出来る。
	5	厚味 厳一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 石橋 賢一 助教	事前に調べてきた2つ目の疾患の病態について、学生同士で共有する。 疾患2の病態を分子的な視点で捉え、さらに深く調べることを見つけ出す。
	6	厚味 厳一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 石橋 賢一 助教	疾患2について、分子病態生理学的に説明できる。 疑問点や問題点を抽出し、解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けた方向性を示すことができる。
	7	厚味 厳一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 石橋 賢一 助教	疾患2の病態を、薬物治療に基づいた視点からとらえることが出来る。
	8	厚味 厳一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 石橋 賢一 助教	疾患2の病態や薬物治療を分子的な視点で捉え、根拠に基づいてわかりやすく説明できる。 議論を通して、他人の意見を参考にして、自分の考え方や意見をまとめることができる。 疾患2について、薬物治療を主導する立場として、他の人に伝えることが出来る。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	講義で取り上げるべき疾患を、いくつかの候補から、根拠と共に決定する。（事前8時間） 講義で取り上げる疾患を様々な資料を参考にして選び出し、ガイドラインを参考にしてまとめる。（事前16時間） 各自が候補とした疾患の概要がわかるような資料を作成する。（事前12時間） 講義で取り上げた疾患に関して、今後の展開について調べ、まとめる。（事後4時間）
教科書	なし
参考書	なし
成績評価の方法および基準	議論への参加姿勢や、課題に取り組む姿勢について、3人の教員それぞれが1課題に対して5%分の評価を行う。 各自が作成したプロダクトの内容について、分子的な観点から統合的にまとめられているかや、根拠に基づいているかに関し、3人の教員それぞれが1課題に対して5%分の評価を行う。 発表や最終的にグループでまとめたプロダクトについて、それぞれ1課題10%分の評価を3人の教員の合議により行う。
その他履修上の注意事項	2日間（授業計画1～4と5～8）の集中講義型で行い、評価する。 まとめたプロダクトの内容に対し、討論を通してフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。